

II.能力で評価する調査項目

1.能力で評価する調査項目



1 群を中心とした

寝返り、
立ち上がり等の、

身体的能力を把握する調査項目

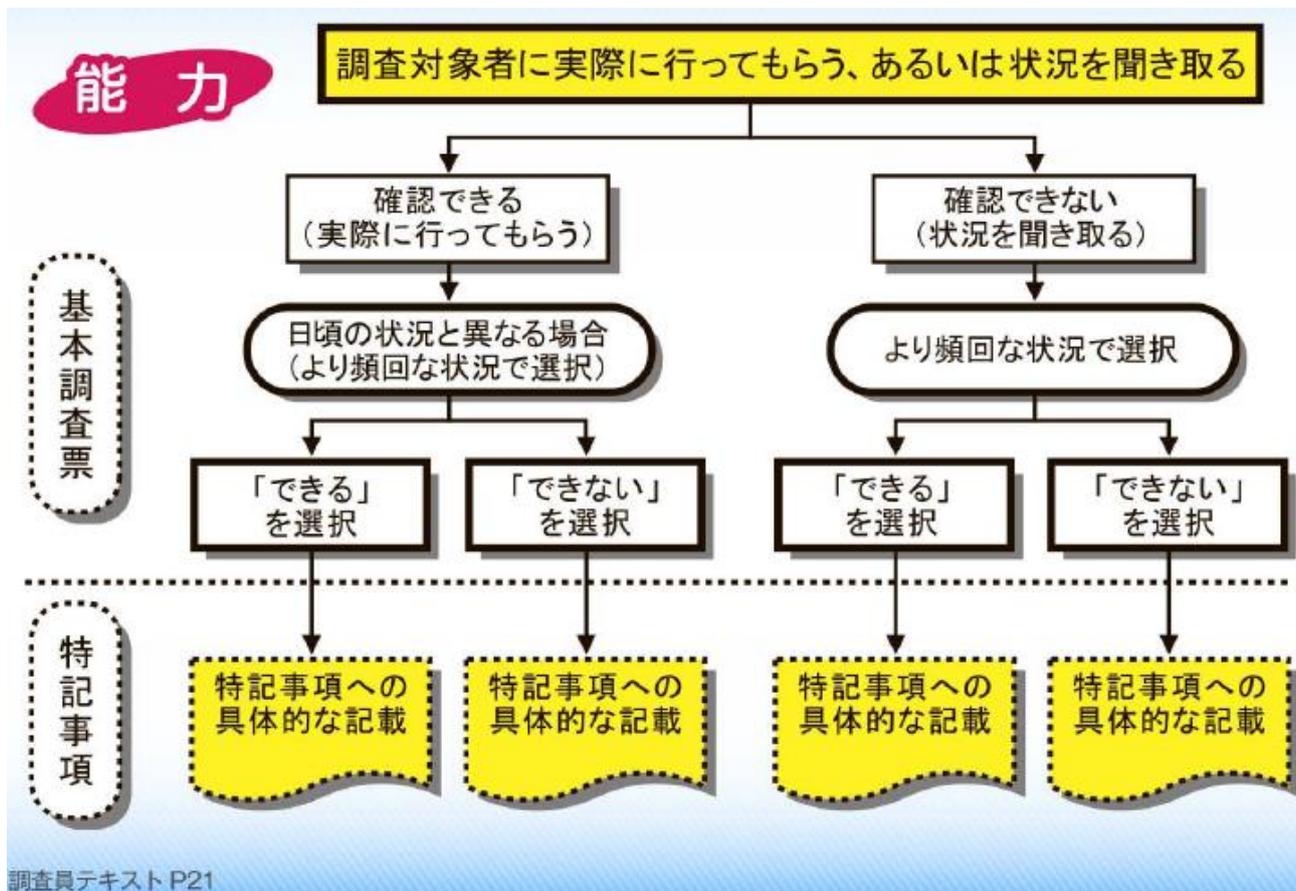
3 群を中心とした

意思の伝達、

認知能力を把握する調査項目

2. 調査の流れ

能力で評価する調査項目は、日常生活上の支障の有無とは関係なく、原則として、調査項目ごとに定められた確認動作の試行と、日頃の状況の聞き取りの2つにより調査を行います。



厚生労働省要介護認定適正化事業「eラーニングシステム教材：能力で評価する調査項目」より

3. 確認動作と日頃の状況

能力で評価する調査項目に関する調査は、
原則として**確認動作で実際に「試行」**。

- 本人や家族の「同意が得られない」場合や、「危険」と判断される場合などでは、確認動作は行わないでください。
- 実際に行ってもらえた場合でも、実際に行ってもらえなかった場合でも、本人や介護者から「日頃の状況」を聞き取ります。

基本調査票 日頃、**より頻回に起きている状況に基づいて**
選択肢を選択する。

特記事項 確認動作の**試行状況**と、**日頃の状況**を、
具体的に記載する。

4. 日頃の状況に対する考え方

例：1－5 座位保持 厚生労働省要介護適正化事業「eラーニングシステム教材：重点講座」より

× 日頃の生活

(例)日中は居室のソファーにもたれて過ごしている

○ 日頃的能力

- 日常生活の動作等を参考にして、別の日に試行した場合も含めて、日頃的能力を推定する。
(例)日頃からもたれていないと座位が保持できない

判断のポイント！

背もたれがない状態での
10分程度の座位保持を日頃からできるかどうか
という能力のこと

実際に試行した結果と日頃の状況が異なる場合は、
一定期間の状況において、より頻回な状況に基づいて選択をする。

第一群における「日頃的能力」は、
申請者にとって、回答が難しい場合もある

「確認の工夫例」

食事摂取時の姿勢、医療機関での受診時の椅子など

背もたれがない椅子に
座っている時の様子を
参考にする

特記事項のポイント！

確認動作の試行や日頃の状況等、
基本調査項目の選択肢の選択根拠を記載

5. 選択肢の選択に迷った場合

テキストに明示されていないときは、
特記事項へ

選択に迷った場合、認定調査員は、
調査対象者の「**具体的な状況**」と
認定調査員の「**判断根拠**」等を
特記事項に記載。

最終的な判断を行うのは
介護認定審査会。

ただし、
一次判定を算出させるために、
選択肢の選択は
必ず行う。

6. 特記事項の例

要点を絞り、簡潔で審査会に伝わりやすい特記事項の記載を目指して、認定調査票（特記事項）の記載例として「厚生労働省 要介護認定適正化事業 認定調査員向け eラーニングシステム」より抜粋しました。特記事項の記載に、お役立てください。

実際に試行した結果より

☞ 1-7 歩行（テキスト P52）

(2)何かにつかまればできる

☞ 自分の膝に手を置いて、5m歩行するのを確認したため、2)を選択。

☞ 1-8 立ち上がり（テキスト P53）

(2)何かにつかまればできる

☞ 調査時には、ベッドサイドに取り付けられた移乗バーにつかまれば自力で「立ち上がり」ができたため、2)を選択。日頃も同様に移乗バーにつかまり自力で行っていると家族より聞き取る。

福祉用具(補装具)や介護用品を使用した状況で判断した場合

☞ 1-3 寝返り（テキスト P41）

(2)何かにつかまればできる

☞ ベッド柵にひもをつけて、そのひもにつかまって自力で「寝返り」ができたことより、2)を選択。

☞ 1-13 聴力（テキスト P67）

(2)普通の声がやっと聞き取れる

☞ 調査時には補聴器を使用した状況で、こちらの分かりやすい言葉が、やっと聞こえる程度であったことより、2)を選択。

より頻回な状況に基づき判断した場合

📁 1-4 起き上がり (テキスト P43)

(3)できない

📄 調査時には、ベッド柵につかまれば自力で「起き上がり」できたが、日頃は倦怠感が強く「できない」状態のことが多く抱き起す介助を行っている
と家族より聞き取り、より頻回な状況に基づき、3)を選択。

確認動作と同様の行為や回答を行っている事が確認できた場合

📁 1-7 歩行 (テキスト P51)

(1)つかまらないでできる

📄 調査時にご本人が、玄関まで出迎えてくれた。5m以上歩いており、日頃
も5m以上歩けると立会人からも聞き取り、1)を選択。

📁 1-8 立ち上がり (テキスト P54)

(2)何かにつかまればできる

📄 畳上の生活で椅子に座る機会がなく、自宅には椅子もないとのことで、実
際に行ってもらえなかったが、週3回デイや受診時の待合室での状況を聞
き取り、より頻回な状況に基づき、2)を選択。